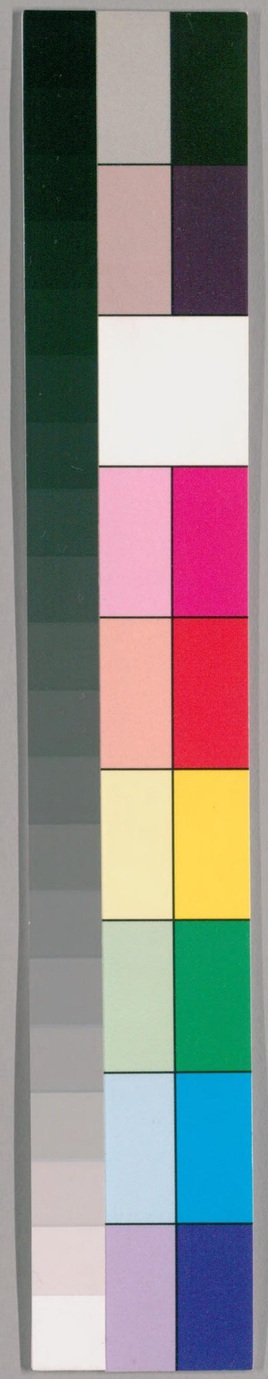

語箋

831
合 60
13

え

ガラス使用

そ

巻う

俚　俚言集覧

栞　和訓栞

曾部

（今按ニ語ハ）そびえて（万葉）そびえたるやうに枝のさしてあるをいふ

そでめかそ　未考ニトゾ（童図ニ）アリ

そゞ草（奥義抄）そゞ草ハ黄なる花也 此菊草ハ菊より 物の黄なるをもいふなるなり

されハ此菊草とそゞ草とかて書たるを見よ（袖中抄）黄色を此菊花

そとも（拾遺集）かの人あるやむすぶてる そ草あたりき [illegible] のてこらさ

そむきかへ [illegible] さき枝にものてきらさハ色のていときうさまて

ひより

そがひ（万葉集）此道をいふ（壬生二百集）風ふけバ松の此方たつ浪のそがひ

そがひ [illegible] 云葉のび

大正 4. 2.15 購求

㋞

蘇（和十六ノ十六丁） 上一三ウ 火ろ二六 あろ上五二ウ

酥 酪ヨリ牛乳ヲ煎シテ得ル乚

紟蘇 甘栗ノ事ー 西宮記一

楚ノ訓 漫一九九

俚言集覧

衣

麻 綜ー 斐ー 穀ー

襲 古事記伝五 オソノ句 猛キヲ

十

背 ソトモ、ソビ、

其 ソガ、ソノ、ソレ、 其ニ ソナリケレ、ソナルラン

徐 ソ、

追馬 万葉假字

彼 ソコ、ソ

鳥 万葉

石 奥ー近江

ソ

少　ソット　[illegible]　[illegible]

殺　そ　割え詞なりそ

嗜嗾　大隅郎文　球磨嗜嗾

そ　磯○いそ

そ　衣○ころも

そ　麻○あさ　[illegible]の轉なる丁

ソ　酥○うし　[illegible]ひとつのち（[illegible]）をつくり[illegible]の

そ代　其○[illegible]をさして[illegible]、それ○そが、それ、そも、その、そを、そよ、そや、そなる　そと

そテ　[illegible]（[illegible]）[illegible]そと[illegible]（[illegible]）○[illegible]そ、[illegible]そ、[illegible]そ、て[illegible]そ、[illegible]そを

そ多　十○とを○いそ（五十）、やそ（八十）ちと

ぞテ　これはかくと[illegible]○[illegible]の名ぞ。[illegible]

そつ　悝　栞　其次

呂

そろ上四股上股

そろ旁四股下股　藺　草名　灯心ニ引キ又ハ莚ノ表ニ織ルモノ

息　ひとしくものいでる

そろゐ
いそろつく
むろの緒

ぞろ　サリメシモ　巻六ノ廿二

ぞろり　サラメシモ　巻六ノ廿二

そろへん　用於元中ノ一

そろばん　算盤珠　巻一ノ廿三ウ　捜神録

（ソハ）

そばむる 日本下痢図 楠 四 廿

そばる 四月尽

そげむ ハ そばむの

そばーろ ハ さばろの

蕎麥（ソハムキ） 和十七ノ三

胡瓜（ソハウリ） 和十七ノ六丁

枫棱（ソハノキ） 和ノ九丁

そはのふつき

そはの立木又 万葉集

まつり 万葉

そはの木

欹[illegible] 巻三ノ八五ウ

駔馬 細二ラ七

ソバヘルト云詞 日八二 貝十五ノ三八 山家集をのぞ

傍續 貝五ノ四八 山道記ニ云 [illegible] 国式下ノ廿五国ツイ

ソバツギ 寸法 深窓秘抄

ソロ

ソ八

ソバ桁敘　らり七ノ二六

ソバ里ゞノ　らナノ九十

ソバキリ　らハ二ノ七

ソバ白木ノ　らハナノさ

ソバヒラ　埋木ハ竹取上ノ廿ん

う゛ノカタハうし

（ソ二）

村下橋　木製長七十二間幅七間

岩淵（イハブチ）橋　埴橋　長二十二間幅一間

そは　岨けはしきところ、かくあるところ（やまそとの）まるかね

つも（リよ）〇そいのうつさ、かまはのくちハなど

そは　代　其者のそれに

そば　側のちかきところ、かたはら

そば　端のふち（ころもそでの）〇さしぬきのそば、そそそとりて

ちらくりをあげ　そそそとそそそそ

そはる　先の様の　そほふ　さくる

（ソ二）

そみ　鵜鳥の名也

そばがほ　半面のよこ顔

そばだつ　自四　峙。けはしくたつ（やまの）

そばだつ　他下二　欹。かたふけたつ（枕を）

そばそば　副　かどかどしう

そばそばし　形　かどかどし。よそよそし、[illegible]

そばつく　他四　戯。ざれたはむる

そばむ　他下二　偏、傍、視。すぐならずよこざまにそむけてある。かたよせてむく。此他はしてそむけてある。そばむる。めをそばむ。（ひきつくろひ）そばめる。これをそばむるなど。目をそばむる（ひとのめをかうそばむなと）

そばむ　自四　偏。かたよりてそむけてある。きちやうのうしろにそばみ。ちぎらひてすこしそばみたる。うちそばみてゐく、そばみ（さこらはたまくでなと）

岩[illegible]齋　[illegible]齋　巻二十二　[illegible]一間

そばむぎ　蕎麥。たなつもののなかソバといふ

そばふる　他下二　戯。たはぶれさわぐ

そばめ　他下二　そばむるにおなじ

そばめ　傍目。そばよりみるめ。（[illegible]三[illegible]ヌ間）

そばみち　偏道。けはしいやまのそばなるみち

そばひら　岨束。けはしきやまの上のたひらなるところ

（ソネ）

そほどく　四加賀　国林図布川

そほづる　四多中庭　撰雅　拾遺

そほりて　四らト段　閑一　宇拾和歌

歴草（ソホキ）　和十ノ七下

緒（ソホミ）　通読　七ノ廿七オ

帖二　あしひきの山田もるてふそほつ社おのゝたのみを人はかくれ

又二　そほつさつ山田の池ハなもれハかゝしなうき世ハ（をイ）あれと

新六　衣笠家良　ゝそほちすつ秋の山人のもりなハあるそ

わそむる〔之〕なる

夫木　御中書王　宗尊　ふる本ハかゝしの名そ　そほめれて

さへつりくるも秋の山田

さぐめ　偵見○これハものみめ、ひそかにヨコメ

まどろみ　偏○いさゝかなるものゝあやまちをゆるすこと

そびらひら　峒表○けはしきやまのうへのたひらかなるところ

まし　鴲鳥○とりのな

[illegible]

そぶつ切
負ちノ廿ち

もてり、ますそのうち、ますうちそのうち [illegible]

そろりと 椿ち あうきつち

[illegible] サウドウ [illegible] 偶后。もえと侍るもろりやれてもる

本中 [illegible] 三畫 [illegible] 木盤 [illegible]

そろる [illegible] 太もろる、あずる

[illegible] 一田 [illegible]

[illegible]

語箋 [illegible]

副車 [illegible]

多人 [illegible]

そばまつ [illegible] そろそろ [illegible]

そぶつ [illegible] ぬれ [illegible] つまそまつ [illegible]

そまつ。つゆそけそまつ。そまうまする。ふうそまつ

そぶふる [illegible] あめの）〇こそあ そぶる、そるさめ

そばふる [illegible]

[illegible]

ガラス使用

[illegible]

○修繕費用
八宮ニ属ス

△修繕要費
八宮ニ属ス

以テ築キ[illegible]ナレハ修繕費用八宮
ニ属ス

南原田堤　本村ノ東方ニ在リ釜村地界中荘田
堤ニ[illegible]リ斜ニ西北出口村地
界ニ至ル長一十一町高一間二尺馬踏三
尺堤敷五間石及ヒ砂利ヲ以テ築ク○
酒田嶋堤　本村ノ西北ニ在リ南原田堤ノ南ヨリ
出口村北界ニ至ル長二町三十
間高一間三尺馬踏二間堤敷五間石及ヒ
砂利ヲ以テ築ク△
三味嶋堤　本村ノ西方酒田嶋堤ノ南ヨリ
出口村地界ニ至ル長二町高一
間馬踏二間堤敷四間石ヲ以テ築キ修繕
費用八宮ニ属ス

[illegible]

㐅

副車　[illegible]ノ三十

遊蠶（象調）[illegible]

好行遊　あつたの[illegible]よくれせしぬやみを見るをた人ぬいふ人のこころ

（大和物語）

多人数　[illegible]ノ四七

[illegible]

ガラス使用

川

手取川 本村地ノ東北火釜、山田先出村地界ヨリ西流シ字酒田島ニ至リ出口村ニ入ル 長九町一十間 幅五町或ハ二町二十間 其同堤塘アリ水流清急ニシテ舟楫通ス

堤塘

原田堤 本村地ノ東北火釜村地界ヨリ手取川ニ沿フ 長二町 高三間三尺 馬踏五間 堤敷九間四尺 石ヲ以テ築ク 根固石籠ヲ以テス 修繕費用ハ官、常ニ

中原田堤 本村地ノ東北火釜村地界原田堤ノ南ヨリ手取川ニ沿ヒ西北出口村地界ニ至ル 長九町一十間 高二間 馬踏四間 堤敷七間三尺 石ヲ以テ築ク

六

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そへに　副　譬　そふる、そのごとく○そへにとて（そへにとて）。[illegible]
けふそのぞく（[illegible]）を

そぐるま　詞　車。のりくめぐるま

そらごと　虚言。とかずごとをそへていふを

そへて　副　加之。それのうへに○かさねてのことをまうすなり
（そへて　心さへ人にいことにおもひあつまる[illegible]）

そへて　副　[illegible]　つけてそへてとをく○とくつけまそへて、[illegible]

[illegible]

川　十[illegible]　本[illegible]

（ソト）

卒堵婆　和十三ノ二丁

袖中抄　十九

ぞとものくすりの[illegible]
そとものみの[illegible]
衣通姫
玉津島姫
素戔嗚尊

[卒都婆]　そとばのとし〳〵ふるまゝにうきよつゝあまた仏のなかにそとはのとし[illegible]

そと　外○さとのうちのところ

そと　副　そつと

ソトハ　卒都婆○　なくなりたる人のあとをとふらふためにたつるもの　衍増注

そとも　背面○うしろのうへ、やまのきた

そとものまへ　山陰也○きたのかげ

ソチ

ソチ

帥○たさいふのつかさのかみ（帥のおんハ入声なれハそちなり

そちといふまちかひ

そつ　シュツ○とそ○よそふ（やすし）もそつ（平）ちゝそつ（去）なと

帥大弐　沈香自仮　荘園　拾芥抄下　三十丁

給酒肴一疋絹

帥ノ大臣　伊周

前宗ー　並隆ー　伊周

一　道長

ソト

橇（雪中ニ乗ル器也）ソリ

そりのちや佐

うしきさく

山家集 たゆみつゝそりのはやをもつけなくに積りにけりな越の白雪

堀川百首（初雪 匡房） 夫木十八 冬部 初雪ふりにけらしなあらち山越の旅人そりにのるまで

夫木十八 親隆（久安六年百首） 降る雪にあらちの山のきこりどもはそりのつなでを引ぞわづらふ

[illegible] [illegible]みそりのはやをの一わざにまさやかのかつぎるらん 為家

そりにのる 侵ろき

そり 橇ハ雪の中をゆく具ナリ そりにのる、そりのつなでなど

片扇

そりハし 反橋ハそりたる形ニ作る橋

ソチ

ソ又

ケリ

リ子

（ツル）

する四ら巾夜

そろく四らす夜因事

ガラス使用

そる 他四 剃○ せつりかをす（かくすおいひげそることを）○かえをそる。

かうそりいもこをそることを

そる 自下 反○ うしろのかたへまがりかへる○ うらかへる、ものゝそむくのそりかへるを

そる 自下 避○ よぐ、あらぬかたへ [illegible] ○ そるはそらす。[illegible]

[illegible]

承和色○ きいろ

十箇 [illegible]

[illegible]

ソワ

楚割　巻二之七

ソヲ

装潢 著 三ノ五十

ソワ

（ソカ）

蘇合香 和十三ノ十丁

そうかう
そうかきく
そうのむしろ
そうかの木
そうでい

そがいろ 承和色、きいろ

。そがぎく 承和菊、いろきなるきく 神中わさ

そがひ 背、うしろのかた、うしろむき

曽我系図 日本サノ一七七 蛇足、紹仙、宗丈、直庵、二直庵、

曽我物語作者時代考 日一九二 写十六ノ五十

曽我蛇足伝 東絵 十二ノ十六 蛇足年代

曽我祐成時致孝信録 集古十種 廿八ノ十一

曽我蕭白伝 同業 四ノ三七

同 作画 同上 四ノ八ノ六

同 叢驕ノ譚 絵画叢誌 四八ノ三〇

ソカ

曽我祐のあつ詩 片扇四

拾遺抄 二十二ノ かのみゆるいけ辺にたてるそか菊のしけみさ枝の色のてこらさ（てごらさ）集

顕照 二十四ノ そかきくしけきさ枝の色のてこらさ 注本

シカサス枝トハシカモサス枝ト云之ト云リコノ歌ノ了ハ奥義抄ニモ久シク説セリ 其中ニ第四句ハ

シカミサエタトコソアラシナラハシタレシカトハシヤカト云詞之ニサエタトハ下枝ト云之ソカ菊

ハ黄和菊ナリ 萬葉菊ナリ 季綱朗卿ノ黄和色ト云コトアリト云 又ヒトモトギク

トモ云説アリ

宮兄 然（ソカ）ノ義ナラハ清テヨムヘシ 已（シガ）之ノ義ナラハ濁テヨムヘシ 又シゲミトアルニヨラハ

茂ミ ミテサ枝ハ真枝ノ義ナヘシ 已（シガ）之ノ件ハ 下枝桜トハ白くし てこハ照濃ミ てこらハ濃照てし

（ソヨ）

そよぐ 四ノ四丁後

そよめく 四ノ四丁後

新撰朗詠 甲九丁 交友 題山寺 [illegible] 暮 [illegible]

かゝらん人こそ （中納言 僧性）山里にたそかれの松風そよりそりくるハ（其ヨリ 太こし）

夫木 そよそよとくつれるをさてこゝろものゝかそてくる心ちのして

友則 群書 後撰 五 行成卿 [illegible]ハ夫の師熙 あさきこん そよめきとなくて流ちん

そよミハそれよりもなく流らんと云心云し（そこる後撰 友則下 別ニ [illegible]）

正義云 そよいハ体の名 水戸ハ深き おき）

園 をきてそよくもあれハ秋風のふくうちはそよく ひとつめるよハ 国秋下

枕 二七丁 ゆるつきさるりて そよそよといそかせる 兼好 下八丁 あらくあまつき

さってそよろとなりしける そよとこそよ

帖 堂の前 かるあをとも秋をまねくといそく そよとこそ

和泉式部日記 葉 説名 [illegible] そよやそよとて山へと [illegible] ハ人を

あかの [illegible]

[illegible] 二上九ウ あさとおくしとりあて [illegible] そよしとたて [illegible]

源氏 [illegible] そよくその子と思ひて [illegible] ききと [illegible]

詞花 蔵人 惟宗隆頼 風ふけハ桜の枝その [illegible] そよくと [illegible]

いつち散らん）

古今 船橋 [illegible] してものを見ハ秋の田の [illegible] そよとこそ人のみまい

そよ 感 ふと思ひ出ていひたる詞 それよ

そよろと 副 おとのするさまをあらはす詞 ○物のつきさはりて そよろ
とつぶやく…こすをすゞぜて そよろとなし といふ人もあの
そよそよ 副を

そよ〱と 副 おとそよ〱するをあらはす詞

そよそよ 下二 それよそれよ

そよりよと 副 おとそよろさまをあらはすことそ

そよぐ 自四 戦ぐ そよろと草木の風のいたみあふをあそひて（草木の枝葉のすれあふてふりあふるをいふ）

そよや 感 それよ

そよめく 自四 そよとおとをたてる

そよそよなし 形く それをこともなげにいふこともなし

そぶろ 四多 四段
そぶろる 四多 下二段 字後十一 引そぶろ

そだつ 自四 育つ おほきくなる

そだつ 他下二 云同上 おほしたつ やしなひそだつ

ソ

某段 之る十

それ 代名。そのあたりにあるものをさしていふことを○それの。それと。それも。それよりといふ類をおきて有の。其を。其も。それ

それといふは、それにつけても。それもあらず。それ

とハなくて。それとさだめぬをいへり

それほ 副 然程。さほど。さうほどを

それがし 代名。某を まへいものをさして用る詞、また自らにも

うてさる子

それながら 副 そのままにて

ソ

そゝく　四加羅波
そゝめく　四加羅波　[illegible]　字後八十丁
そゞろく　四加羅波　因
そゝのかし　四左羅波
そゝる　四ら羅波　国十七
そゝくる　四ら羅波　[illegible]　[illegible]　[illegible]楚
鵁（ソヽロ）　和十八ノ十九丁
飛廉（ソヽキ）　草業九ノ十六丁
そゝろと云詞　由十八
徒なる義歟
そゝろ了

新古今　基俊　たかまとの野ちのしの原末さはき　そゝや木枯
けふふきぬなり
詞花　大江嘉言　荻の葉にそゝや秋風吹ぬめりこほれやしぬる
露のしらたま
新古今　秋上　崇徳院　いつしかと荻のはむけのかたよりに　そゝや秋とそ
（又あ二字ある也）
[illegible]　風もきこゆる
清輔　待山もいつも山のもまつ程の白雪は　そゝやそれそとおもほゆる
りゆめぬる
又　名ねのおとるにそゝやあけぬと驚けは只秋風の花さそふ
堀次　俊頼筆　夫木　こゝのねのとこそよもせよ夕（後）れは家も
いよの立ぬそゝろさむきは

そつきなくいとう
こゝろにもあらぬ

（ツ）

師字音訓　後二六

卒翁　月蓋紀ゟ右帳ニ　秘ル八之　美教　廿ノ十八　美協　十三号ノ廿　修三ノ七

筆林

ろわゝゝ　ろくろ　ろゝゝ　カブリ　鬢　すぐろに　おなし

ろくろ　轆　やりなどのゑのけすの又ハろりのところをさすもの

ろころり　くわく　ころりすけ　すくろりしに　おなし

ろじろぐ　自て　すじろぐに　おなし

ろゝざるゝ　自て　いそがしげに　する

ろしと　副　かやちとに　他の　ふきて　あるおとの　すりよ、そこ　それ　それと　さあす

ろうし　形く　くく　いそがし
こそこそ

ろてのかせ　他　徙逍　いそがしくうつゝすゝめあまの　ほす

ろてく　自て　劇　いそがしげ　なきたるす

ろてく　自下二　うちもぶる　いりこぶる（かろのけ　まついくもちとの）

ろてぐ　他四　注　もずしゅく（ゐちこそ）ろつ　そゝく　むろきあ　そゝぐ、そぐれ
そくぐ、いそそぐ、あそぐ　そゝぐ　ろと

ろてくる　ろてくる　ろてや　他下　寿　てすさみする、すてあそぶ

ろいめく

ろくや　感　ますや、いや　ソリヤ

ろうけ　形　寛　さるそ、まつ　寛くてぐさと子

ろめく　自て　そゝけしけに　さちまる

ガラス使用

（ソネ）そ自由因善反

そね 确○ いしまじりのやせところ

そねむ 化也 猜○ うらやみきらひてにくむ

そねましく（形）猜○ そねむへき事

そねみ 猜○ そねむこと

風雅 秋中 百首 夕日うつる柳の末の秋風に そよく衣の下の葉もさひしさ

閑倫 雲雀より吹きくる風そなつかしき 蛙の鳴く（霞）小田や しめらん

図世 うつりのこるまとゐの中に秋めかり（問ニ） ふるきすかたのなつかしみつれ

そうて女王の歌 傍ニ云 翁ノ上ノ山

學校　公立金平小學校　本村ノ西南枝村六拾ツ五十六番地ニアリ（民家ヲ假用ス）明治六年九月十三日設立生徒男九十六人女一十一人明治九年一月一日調査

村役所　あなる[illegible]具係ロ文場本村ノ西方（枝村）金山ム九番地ニ

[illegible]

[illegible]（他下二）[illegible]制。あれてをるロ[illegible]、それ[illegible]

[illegible]副[illegible]

[illegible]代其方。そのうへ、ツチウのかへ。[illegible]。[illegible]

[illegible]他下二借りたてまつる[illegible]

[illegible]他下二具備[illegible]

同本村[illegible]

同本村[illegible]

同本村[illegible]金平十三番地ニ[illegible]十

リ十

學校　公立金平小學校（本村ノ西南枚村六橋ソ五十六番地ニアリ民家ヲ假用ス明治六年九月十三日設立生徒男九十六人女一十一人明治九年一月一日調査）

村役所　戸長役場本村ノ西方枚村金山ム九番地ニアリ民家ヲ假用ス本村及ヒ正蓮寺村五國寺村花坂村大野村江指村釜平村澤村松岡村代織村三谷村布橋村塩原村波佐羅村勘定村十四村ノ役場ナリ

古跡　城跡本村ノ東北字水晶ニアリ今白田トナリ石垣僅ニ存ス

一平野居（ヒラノ）同本村ノ西北大野村地界ナカリ字平野ニアリ今畠ト壇僅ニ存ス之ヲ開ノ内ト称ス平野某居リシト云

同本村ノ南方字猪俣ニアリ今三昧トナル猪俣盡平ト云者居リ後備前関戸ノ士トナリシト云

ツ十

學校

公立金平小學校（本村ノ西南枚村六拾壹ノ五十六番地ニアリ 民家ヲ假用ス明治六年九月十三日設立生徒男九十六人女一十一人明治九年一月一日調査）

村役所

戸長役場本村ノ西方金山ム九番地ニアリ民家ヲ假用ス本村及ヒ正蓮寺村五國寺村花坊村大野村江指村澤村松岡村佗織村三谷村布橋村塩谷村法佐羅村勘定村十四村ノ役場ナリ

枚村

古跡

城跡 本村ノ東北ニアリ今白田トナリ石垣僅ニ存ス

字水關

一平野屋敷（ヒラノ）

同 本村ノ西北大野村地界ニアリ字平野ニアリ今遍ト遺礎僅ニ存ス之ヲ門ノ内ト称ス平野某居リシト云

同 本村ノ南方字猪俣ニアリ今三昧トナル猪俣小平ト云者居リ後備前國庄ノ士トナリシト云

同 本村ノ東端字荒田ニアリ今白田トナル墓跡遺石僅ニ存ス

[illegible]

ガラス使用

（ソラ）

藁本（ソラし） 五廿ノ廿丁

虚見津（ソラミツ） 五一ノ七オ

空言や許 とのア
いつはりの事 [illegible]のア [illegible]

続詞 秋上 [illegible]
あや[illegible]見えしや秋と[illegible]よるてもあつ秋のよの月

後撰集 [illegible]こちられハ心[illegible]をきよめんそらあの

人の心をまくらるも 後 ちりそらつ 初句

金槐 久かたの月の光のきよけれハ秋のなかはを[illegible]

拾遺 陸奥 [illegible]へおほつかなき[illegible]

餘りはのゑ

堀河 仲実 [illegible]へあまた[illegible]の[illegible]

うつはあらせうつ[illegible]

そらもし [illegible]ノ十五

そらそらのめ 寅毛キテ人ノタノミニオモハセルヲ云 ソラタノミト云フハナシ 大八洲学会雑誌十五号

空歎 [illegible]ノ二

空ヨリやフリケン土ヨリやワキケン 後下ろハ[illegible]

虚空ヲ人ノ登リ乞フ 洗ろ七

そらごと 五十ラノ四十

徂徠 秋風来田讃手 三十六ノ一

そら許 後七三 聞居先人の説八十二丁

徂徠南郭の事 東洋学会雑誌三編 二ノ一〇七

そらかし　ネタルフリスルハ空氣ナルノ云カ

サラ

そらうのこゑ と云詞　　尾張　横田利兄

本鈔十九ニ 小西清胤君の そらうのこゑ と云詞 例あり やさしく をく のゝくるる

此歌考ふるまてに 要なきとあらのみ

そもそも そらうのあ とある詞ハ 實モナキコトヲ人ノタヾニ オモハセン 一ツノ詞 ニテ

たのむト云詞 同他ノ例ニテ バタヾリ例アレハトテ そらうのみ トハイフマシキナリ）

（あらそうのゝ声トモ アヂキナラ又タヾニ 云一ツノ詞ニテ あらそうのあトモ云ヘ例ナシ）

カリニ一ツノ詞トナリタル上ハ 世ニシフルヽ ことに人をうつりかゝりテ 人ノタヾニ オモヒ

さこそ、取カタキ古歌ニモ アレト 独 そらうのあトヨミテ そらうのみトイヘルナレ 或ハ

古歌ニ例ナシトテモ 此例アラハ ナトカヨマサラントイフ人モ アルヘキカナレ凡 古風

秋風トハイヘ 鳥風 みな風トヨメルヲ思ス マレナ理ハモ キコエ読ク 例モナキ

そらうのこゑ と云詞 歌ニハ ヨミ出マシキコニコソ

うつろ 虚空○ホヽうつろ、よろづのくゐとうあいたのうへをおほふ

おきうしなきもの○そらいふ、うつろのいろ、うつろをあふぎ、うつろ

をあふぐ（やまとものかたりきさのさめをいふ）

うつろゆくくも、そらゆく月を

うつろ（カフリ）虚俗○うつろとあると云ふ、うへのそらの、いつはりの○

そらはめ、そらめ、そらね、そらなき、そらごと、そらせ、

そらおもひ、そらなやみ、そらがたりなと

うつろいろ 空色○あをきうつろのめきいろ

うつろいき 虚行○うつろゆくといふること

うつろいづく（形）くうつろいづく

うつろ（ミ）形 寄、空、虚○うつろとあめて・うへのそら（ミ）、いつはり（て）○ひとの

心そらみちる、そらなる人そ

うつろみ（副）語○こゝろのそらにて、おもひなりて○みをそらにみなし

そらまおもひける、まどはせ人をそらみしる、あきのそらさす

そらみしる、そでうそぶるべうちん そらにいつてると

うつろはめ 虚飾○いつはりてかざること（心みすしといふおもひかたぶり）

うつろとうろ きうそなそろとうつろをとるうろ

うつろぞかふ（他下二）請教○心のうちにて大よそをかぞふること

うつろぶみめ 虚書○まことならぬ ヤクソク

うつろぶき 空薫香（そら焼香）○たきもののあるかたちなくまつりのときま

うつろたきもの そらたきもの○かをりのまつりまいすこと

そらにありあり

そらやすし 形 こころやすし

そらごと 虚辞。いつはりのことば

そらごたへ 偽答。いつはりのこたへ

そらごころ 偽心。いつはりの心

そらめ 偽視。（ミソコナヒ）みあやまりてあらぬことをみること。また たしかならぬ

そらめく 自ら そらごとをいふ。たしかならぬことのやうなり

そらうぶれ 詐辞。そらごと

そらみ 偽眠。ねたるまねする

そらし 蔑木。手のちまり。さはばそらしといふ

そらごと 詐辞。さけすなさるをなすこと

そらひかり 偽電。いつはりのひかり（ひかりはおとなひたてききそろをいふこと）

そらすのがり まことみあらぬすのかり

そらまのつく 物憑。もののけつく

そらせつこ ソラセツコ 空情息。いつはりのふるまひのこと

そらす 他四 逸。はづす（それを）

そらむ 他下二 誦。そのいろをとる

そらむ 他四 誦。そのいろみなをす

そらむ 自四 誦。そらむ。おもひそむなど

ソン 樽。たる。さけをいるうつは

ソン 損。そこなふこと。わがもののへること をくるくなる

そらつひたの 空は日高。ひつぎのこと

そらつひこ 空津彦。そらにみてあるきみそれうるおん人

そらね 偽声。いつはりのこゑ（そらのなくねをまねひて）

そらね 偽寝。いねざるをねたるまねすること

そらな 虚名。あだなる名のそくるな アダナ

そらなげき 偽嘆。いつはりてなげくこと

そらなき 偽鳴。いつはりてなくこと（ないとりの）

そらなし やうもなし べくもなし。こころもなし。そらもなし。そらなし やかましき

そらおぼれ いつはりておぼろけなるふりをすること

そらおぼろ 朧記。こころのほのかにあやふやなること

そらおぼめき そらることをしらぬかほしてあやふやなることをいふ

そらおそろし 形 なにとなくおそろしと思ふ

そらぐもり 偽曇。くもるやうにてくもらぬこと

そらやみ 詐病。やまひといつはること

剣撃 ……

箸突 十二尖 ……

ソム

そむく 四加四段

そむくる 四四下二段

そむ 四まゝ段

そむる 四ま下二段

撙 和十三ノ九丁

そむれハ撙ゟ来 いのちか撙ゟ

そむ 他之 染。そのいろをとる

そむ 下 初。をもひそむ いろそむ おもひそむる

そむ 他下二段 染。そのいろそむるを

ソン 撙。たよ。俯ミ入へし焉

ソン 損。そこなふこと、物ちを少なくする

ソンワウ 孫王。こまこのもこ

そむく 他 背。うしろになるを

[illegible]

ソンシヤ　尊者　あへのときまそそかみまをる人

尊海　僧名　紀行　詩三三九

尊ノ字　日五六　海一八八

遜信　ゑマノ五一

遜位帝　拜院　五ノマ十一

そんさめざ　尊者ノ座　新撰字十六

孫ノ議　古

蹲居　貴一ノ九

貴人ノ前ヲ通ルニハトックヒ手ヲツキテ通ルコトヲ今ハ中ル又通リ玉ナ、是人アリ

高名ノ奉公人ニテハ貴人ノ通行ノ時ツクバヒヲシルヲ云ーハソンキヨトスワヘトヨメハ此[illegible]

ナルヘシ

孫星　郡務名　君臺

孫晨　徒十八大成三ノ三十ウ

巣ぬり政色　育葉草上篇中廿

宗作

駿快　容易ニンジイノ元クた

淺貫　合せて何見ト也

そゝき星

宗元火

宗牙を薬る店

宗悟瓶

曽司　芸文　御書目　ニ十ス三
内方住居
外方次第

掛じん

宗十たゝ政中

[illegible]總社

宗十(

俗云
素麺
湯水 水飯
贈位 契沖阿闍梨 明治卅四年冬 正四位

（ソリ）
そゝりある 四左衣裳
そゝろ寒て 山口下 四十三丁
曽能姑 和二ノ十三丁
雙（ソウ）調曲 和四ノ廿三丁
僧都 和十三ノ二丁
美（ソトウ）鐵ノ匕、肉 宍十三ノ十五
蘇竹綾 舶一二〇
承仕法師 徒下廿三段
排斥宋儒 目二ノ八
宋世ノ物語 四川志衆 国文叢書廿六ノ四三
宋儒理氣ノ論 内田周平 學ト自新説 一ノ四
宗湛日記 国華 廿三号ノ一九二 湛ハ宗丹ニ作ル 文學ニ作ルアリ 又名白牧、博多ノ宗丹上座ト称ス

来迎寺新図 国華廿号ノ一九九ノ十

送窮 林羅山集 一ノ五

宗達 俵屋 日本古代 三三

曹洞 伊吾庵 慢カリ 僧ヅラ 左ノ部位 僧都ニ於ル 一同

叟 もちえ任

僧

奏 手習ノ上ノ一

ぞゞり 花王 殺

送行 ソウアン

僧座 僧厨 行脚 カツギャ 蒼瀧ノ歌 トラク 兵刀カシヤ

宗旨

惣嫁 早歌ノ和ナラシ

俗伽 俗衆 ソウギヤリ 大衣ト作ス

僧祇 大多数ノ任 無量

曾我蕭白 春駒ノ譚 続画叢話 巳ハノ三ウ

尊海僧正紀行 ソン 群三三九

ソキ

ソタ

ソビ 某殿 文ゐ十一

ソハ ソハソロ言詞 四十六

ソツ 帥字 言訓 後二六

ソ子

ソナ

ソウ 虚空ニ人ヲ云ヒソシルヿ 識ゐ七

ソウ色 ゑ三ノ十五

ソウタキ 貞十三ノ八才

徂徠 秋風楽曲譜考 巻六一

孫子 旗 五

遜位 三帝 称院 巻五十

孫字 日五三 四 一八八

蹲居 貞二ノ十 貴人ノ前ヲ通ルトキソトツクビ手ヲツキテ通ルヲ云 今ハ中礼又通リ礼下ニ云人アリ 常見云 金作ニハ貴人ノ通ル辻ニテツクバヒキルヲ云 一二ウ久リスワルトヨメハ此義本モヘシ

ソゴロ 徒下ゐ三段

卒翁 伴手 美協十二号サ 後三ノ七 君臺観左右帳記ニ載ル人 美敷 茜六

ソウミ 従七三 開居名人 諸人ニサヘナルヿ

ソウメ如 寛永ヤキワシ人ノ文ノミニヲモハヤ ソウメ如上手ナル 大明学令 歌語十九号

空勘文 江談三 三一

ソラヨリヤフリケン 土ヨリヤヌケン 徒下百八段

遜位 貞七ノ五

そんじょそこ 新撰 座 御利益

孫見 形物 名目 壇

ソウ、奏請 長二三七

、僧正僧都法頭 僧六六

、僧諳大神宮誦仏経 後二一三

、僧素訓 長三五八後ろ卅五

僧徒動辛敵朝 位一〇五

僧玉争判 触一七八

ソウカウ名 負三ノ十

、僧中役名 ホ七

、奏者 負四ノ三

總鹿子 負三ノ廿四

總海藪 武三〇

物字 武一〇九

、賜位賜官 負四ノ卅二

、走馬 負十二ノ〇九

蔥花輦 日一二六

、僧綱 ホ六七

宗久 嗤人五人一冥

、宗祇ノ胸帳 骨董集上篇中廿九

宗長手記 群三二六

宗祇児教訓 群三一一

宗鑑狂歌ノ辨 内田周平 東洋哲学 [illegible]

雙幅 呂ノ九丑卅

本完

金平村より原村へ
達るん稜道

大橋 木製長七間幅一間 郷谷川

西山橋 木製長二間幅一間 谷川

城越橋 木製長二間三尺幅一間 谷川

城越下橋 木製長三間三尺幅一間 谷川

童子ノ 蒙聞
金平林のし亭好

ソンワウ 孫王。みまごのみこ

ソむく 作ゞ 背。うしろにちなす

ソンじや 尊者。あへのとき、もとめかみなる人

ソウ 僧。かみをそりて仏の道にいりたる人

ゾウ 族。やから、イチゾク

ゾウ 判官、祐、丞、忠、将監、進、允、佐、掾、主政、主帳、従。まつり

ぞうびと。つかさのまつりごとをつかさどるぞ
ことをつかさどるひと。

ソウバウ 僧坊。そうのすむいへ

ゾウル井 族類。うからやから

ソウカウ 僧綱。そうのつかさ、そうじやう、そうづ、りつしをいふ

ソウゾク 僧俗。そうとそうならぬひとをあはせていふことば

ソウヅ 僧都。そうのくらゐ、そうじやうのつぎなり

ソウブン 処分。とりさばき（これいかくとまうすことをさして）

栴檀 木篆書 二間 主文 部 一間 谷川

西山樵 木篆書 二間 部 一間 谷川

大樵 木篆書 七間 部 一間 藤谷川

枕七ノ五ウ

ソウメイ 聰明、聡。きこえのひかりをまつりうるとき くはやし

ソウメイシン 聰明心。（さうきさとく）さとくうときこころ

ソウじやう 僧正。そうのたかきくらゐ

ゾウじやうまん 増上慢。ほこりおもふこと（まんしんのこころ）

ソウす 他奏。奏。きこえあぐ（ことふく）

ソンワウ　孫王○みまごのみこ

そりむく　仰々　背のうしろにそらす

ソンジヤ　尊者○あへのとき、もとものかみなる人

ソウ　僧○かみをそりて仏の道をつとむる人

ゾウ　族○やから、イチゾク

ゾウ　判官、祐、丞、忠、将監、典厩、進、允、佐、掾、主政、幸侍、從○まつりごと ぞうびと、つかさつかさのまつりごとをつかさどりておこなふ ことをつかさどるひと。

ソウバウ　僧坊○ほふしのすむいへ

蛛蛛　音　木橐　二間　主文部一間

ゾウル井　族類○うからやから　谷川

ソウカウ　僧綱○そうのつかさ、そうじやう、そうづ、りつしをいふ

ソウゾク　僧俗○そうとそうならざるひとをあはせていふことば

西山　音　木橐　二間　部一間　谷川

ソノ

園ソノフ　圃ソノフ　和一ノ廿一　古十九　あさぢふの〔頭注〕 [illegible] 人は おもすしさをられ そのそこる白くみえるに

苑ソノフ　囿　和一ノ廿一　[illegible]　〔男〕その人 [illegible] とうのおもわかかるかし [illegible]

ソノクカフケヌ　其　鞘撰野奴　手二十八オ　〔風雅〕[illegible] あれさしその香をもちかの花も書 [illegible]

その笑　鈔の嘆

その不審をの帛末　其のアか

その　匡、園、其〇くさ木をうゑてる を苑とも、とりけものをかふところ

そりの稚其〇それの、あのまつはあるものをさしていふ詞のすてめしの

くらゐ〇そのもの、そのこと、そのひと、そのかた、そのころ、そのところ、

そのほか、そのさま、そのころをと

そのうち　当時、勝者〇すぎましとき、いましときむかし

そのかみ　副　昔〇まつは、むかし、いにしときに

そのまへ、その時には　副　そのまへをいふところ

そのよ　国〇そのよおもふ〇あのそのよ、くれ竹のそのよ、そのよふこもり

[illegible]

其ノ略語　後二二巳

圓ニ女　（刻女ろ人ニえ　日本之女学十五号）

其ノ物ニ就テ其物ヲ損フ　徒九七段

圓ニ并　韓神祭　江次第五ノ廿五

ソ

そく 四加段 墨下 退
そぐ 四加段

族昆弟 和二ノ十五丁
蔟蔟（ソクソク） 和七ノ十二丁

族制進化論 有賀文学士著ヲ読テ著者ニ質ス 黙而居士 東洋学芸雑誌三号ノ四二

俗語ノ根據 中村清紀 いろ編一ノ五五

いくじなし
いまじぶん 今時分
ちいねり 銭金
馬鹿
ぼんのくぼ
本気
道具
とんぶらり とんりかろり
分別
ちとせしく
勝手
理不尽
まるびき
覚悟
風ひく

からっと
よけい 餘慶 餘計
たいそう 大層
たちろう
大切
かろう
紛紙
新品
浪人
きちんれ 器
くるでん
くりやと
くづる

いかすげ
厄介
やかまし
まちどほ
なまあくび
ま男
けつまづく
不敬
風呂
横忽
こけ
口上、口牧
こそぐる

故障
ころころ
子をおろさせ
ちょろまかり
手紙
あやまる
ありつく
あざやし
縁起
細工
時をつぶし
目うつり

ガラス使用

迷惑
目出事
可なり
手後
[illegible]
縁起
人され
人まり
見聞貝
すのぐき
い吹嗟
ずゐぶん
すたれり
有賀文堂ノ殺刹を作縁ソ読テ　點本屋　高用学堂数説　三編ニノ手
素一点　キヌチノ思乙　筆アモリ孔テテ

そくひ
同 後陽成慶長のころまでいひしなるべし　武徳安民記　天正十五年七月
高木村外ケ條之中　一　[illegible]ニ　そくひとりひ　縁而之ニ信出達一
事

ガラス使用

宮谷橋 木製長五尺幅三尺 谷川

猫子橋 木製長一間幅一間 谷川

大淵橋（オホブチ） 植橋 長一十二間 幅一間

そく 自□退□とほくさかる、さけそりぞく○ろきをる（とほざかる）

そく 他□却□さけくちかんしむ、さけそりぞくしむ

ろじ 他□殺、刹、減□けづりてうすくなす（すくなくする）きりとる

（かずのすくなくなるを）ちぢく（ことを）○そぎすつ、めぐらるの

すそうつくしけるそぐ、かずのうつくしげみそうれしうすゑ

そそぐ、よろづをそろせたまへ、いまそのことそそぐ おもはるれて そと

ゾク　賊○つみびと　あだするもの　わるもの
ゾク　俗○ならひ　あらはするひと
ゾク　俗○さとびと
ゾクいひ　續飯○いひをねりてつくるのり
ゾクラウ　贖労○ものをいだしてつみのむくいをまぬかるること
ゾクサイ　息災○まがひをはらふこと
ぞくひ　續飯○ぞくいひにおなじ
ぞくび　頸○くび（ののしりていふことば）
ゾクひじり　俗聖○かしらをそらずして　ひじりめくひと
そや　征箭○たゝかひに用る
大渉橋　長一十二間　幅一間
ぞや　初夜○よるの二刻よりよなか　二十四分よりねの二とく（十二時
二十四分○までのあひだ
猫子橋　土　長一間　幅一間　谷川
そま　杣山○又○木をとるところ、きをきるひと（ひとをいへるときは　そまびと　そまうど　そまつきをのぞくいふ
[illegible]
宮谷橋　土　長[illegible]　幅[illegible]　谷川

東帯式目
桃羽七ノ二

、蘇竹綾　舶一二七
、ゾクとうノ亡人　美饗内　貞十三ノ十五
、排弁宗傳　日二八
弁
ソノ　其ノ男語　及二三
ソオ
ソク、東帯シテ座スヘキ　、東帯ニテ參ル者　延喜式　十六ノ十
東帯ノ事　、東帯ノ下襲ノ事　延喜式　十六ノ十六
そくらい　貞八ノ二八　貞五ノ二二　日行廿三六　、束帯ヲ[illegible]　[illegible]　下二
息命丹方　漫三九　、東帯ノ事　還城楽[illegible]　後紫二
俗語出所考ノ書名　長一二一　宮[illegible]中[illegible]
俗語　葵九九後　一九三　唐[illegible]　[illegible]
、俗語用字　日一七六　[illegible]　群ろ十八ノ三七
、俗語弁　[illegible]　東帯衣作リ[illegible]　群ろ十二ノ二
、俗二意　[illegible]　東帯袍[illegible]　達阿　群ろ十六ノ一日リ
孟仁法師　徒下廿六
園弁　藝神祭　延喜五ノ廿五
其物ニ付テ其物ヲ損スモノ　徒九七
園女　不知母ヲ人一名　日本之女字書五ロ

即位礼義式　後九八　東文[illegible]十二ノ廿七

即位日佩劔様　册一七五　足[illegible]　呂三ノ五オ

即位被議武家　册一八六

即詠　後三二一　統紙板　ソクイイタ　呂一ノ五五ウ

無即位号天皇　後一六四　屡星ノ名字　注次一ノ十

無即位号院　後一六六　続紙名[illegible]中十六

塞白界　土器名　貞七ノ三　内九十　火七五　そくゐ　陸飯[illegible]サセ

や　征矢　貞十ノ三又三三

征矢根　貞十九　征矢内向外向指様　斎忠猶頭ノ記

征矢箙　貞十ノ十

ソく　松字[illegible]

ソケ　素絹衣　助一三五　貞五ノ百八

ソラ　添水　漫一九一

ソ　素服　小七三　貞三ノ三三　貞十六ノ二六　触一九四

ソ　ソコハカトナクト云詞　後一九七　[illegible]　胡琴[illegible]　云々上[illegible]

東帯ノ装束ノ事

冬　半臂キナシ（闕腋ニハ冬モアリ）　下襲　蹴鞠（上達部綾　殿上人平絹）又柳（裏吹　ヨリニ　ヨリテ　之ヲキル）（殿上人ハ之ヲユリ免ハ）若キ人　表濃蘇芳[illegible]

夏　半臂　袍ナシ　帽子ニ（又ハコハリハリ又ハ唐ノ羅キル）單ヲキヌ　下襲（上達部赤色　殿上人二藍）（オトナシキ人青朽葉）（[illegible]）濃カ　左右口々　柳　若柳　つじ　半下襲云

上達部表唐綾　殿上人諸表　表絹ヲキル　上[illegible]表フクナ

△　オトナシキ人ハ柳裏ハ青黒色ニ染　三遠トモ云

半臂ノ袍ニハ裏ナシ　白単ヲ切レ　六位ノハシニナク　[illegible]

上[illegible]

厚額
薄額

桃花蘂葉　後成恩寺関白兼良公

当家相伝装束以下事

一束帯ノ冠

冠ハ若年ノ冠ハ小菱の紋ある冠ヲ用る也　壮年冠縁をはなれて

其後[illegible]冠をはなれても有文のもの也　晩年の中ハ其の縁を用べし

冠師を召て問ひもすべし　又歳十五才迄ハ厚額也

其以後ハあつ額を用ゆ　無紋を着れハ若年儀雪の人也

十六才以後も猶厚額をも用ひらるゝ例あり

京極大閤（師実）ハ卅才左大臣の時厚額をも用給ふ　延久三年

後二条殿（師通）ハ卅二内大臣の時厚額を用給ふ　寛治七年

宇治の左府（頼長）ハ十六才にて内大臣の時既てあつ額を用

（台記近衛）久寿二年七月左少将兼長　少将兼ニ用ニ厚額冠ヲ子

問之陳云厚額余謂十八歳以下用之所承用之作之束〃而答

有用之此額同年ニ官卑甚不当也　自今以後可用厚

額者也

丁子ノ丸
若ハ菊ニ云也
元之節
示ニ部
諸家ノ流儀

又
浮線綾ヲ
示ニ部
元之節

袍

衣冠の袍（大紋などには袍の紋　丁子の丸　若菊なども云）揚羽陰向
まづ下には紗綾の紋　太閤の紋は菊の桐之地には雲を
さらの綾　菊水の紋花の名なり　さらさ附子目の綾を
着もする　夏は穀　文は同　色はうすものを染て織る
染紙のよしゝ（但五位中納言は色ぬり金あげの色也）かねは黒くて早く打つまでて
さくら紙のめ上げりて下を蘇芳の木をよく煮して染るそ
染てうへを下の緒は葉を葉しても染るも
てそしもちきといふ下の紐をまはりころの皮まで染むる
といふ多くは平緒の裏あり毛は表なり　揚羽の附の紋絶
文　浮線綾の文之のよし　菊縫で（四つ目）で月式にて見て是は
冬も青之浦を着　浮線綾の同じ緑などのかり

（ソヤ）
征箭　伊三七丁ウにこゝにあり　気十ノミス三ミ
そや　初夜ハ亥の二刻（亥の時二十四分目也）子ノ二刻（丑二時二十四分）までのあいだ
征矢ノ根　気十九
征矢ノ篦　気十ノ十
征矢内向外向持扱　高忠狩詞記

そ

そまくだし

杣 和一ノ四十

月詣 俊成〈杣下し あたなみ引まされハ ともけの松も なかりけるかな〉

小大君集 なかりにたちよりし大井川 そまやま風のさむけるいさなみ

波をこえつゝそなる 拾遺 春 三条院女蔵人左近 大井川しさむるかな そまやまびこと いふ

散 田上にて川のはさまにちるなる杣のあたりを つけくる月のこゝろくるしく見えれハ

この松さうしもおほしけれ汲めや そださしくる月はいふそれを

是ハ此ヒモ吾妻ハ廣ク東ニ多ナレハ ソムキト云ナル（） ソハサムト八耳ハサミガチナド云 所作ニテ髪ノ側ヲ耳ニハサメ名シ云ナル（） ソハちすめハ息ノアラハナル（ギシせしも 覚ヘズコグランレト）

そま 杣山又杣叉 ○きをとる山。又 きをきる人〈山ノ云カモト〉人ハ そま人 そまやま人

そまひとつきを抜い をかまて そまとのゝ声やうなるかな

杣ノ木 赤

ツヤ

ガラス使用

（ソケ）未須之　蔵一三五　ちイ五ノ四八

そまぶ　杣香　ころともべきさき。そまやまのき

そまゐ　色四染ロ　そめらる。そのそろさる

そまる　ちやーきろてそまのごとく有ろうるとそろ

そまゐろ　自下二伐木ロ　きをきりいだす

そまつくる　自四　そまのめぐしける。そまろのめぐゐる

そまくだす　自　てころそろるきをかけゐろゐへてなかしくだす

そまやま　杣山ロ　きをとるやま、そま

そまやまびと　そまをそまあそし

そまびと　樵夫ロ　きころ、きことをりとる人

ソフ

そふ四時ノ庭

そう四時下庭

瀝草（ソフキ） 和十六七丁

袖中 添川（ソブガハ） 添川ハ宗の語ありて かなげのあるのごとく水をあそぶなり 十二丁ウ

そふ川といふ所の河原ハ則 そふすがれハそふ川といふなり ことし

青き乎今ハ鶴卯も石なる巻にて袖中抄の歌と新葉の指南するなり

添川とふるかるに 般若の河谷と路名をしこうを本社所へ来りて弾

を立て 勘物をして青田家の評をまうんとて明か般若をえんとそふ

よれるのあるみ 同じ歌る趣をえらしまうふ とぶハ山家の事なり

なるし

そふ 良々添、副、配従のたぐひを多くつきてをる。あるうへにつくは

けるにをことよいつきて添てをる、つきしそふ

そふ 紙ろこ添、副のそいしが、あるうへにそへて、つきしそふしも

そぶり すべてにけりひ

ソフク 素服の ふるきころも（ものと云ふるきころもなり）

添水 漫一九一

素服 小さき 矣三ノ 三レ 又十三ノ 二六 舶一九九

そふ 袖中抄十二 乙巻下

ソフ

㋞ソコ

そこ　在四照底

塞（ソコ）　船一ノ五丁

ソコヒカトナリヤ勤納　後一九七

そこら　胡琴ノ教録

散 をくら川むつきみをかゝるゑこゝのくれをつらしきてもそこのさゝあそ（足下）

順 わの葉のうらうしく秋ハ石をあらふてふくそさかる山川のそこ

素性 思ふそら事のふかみおもはれてそことも知らぬ（足下）花折てくら

不可

高土居橋 木製長二間二尺幅一間　輕海用水川

[illegible]

ヤツクチ橋 木製長一間三尺幅一間　輕海用水川

[illegible]

~~せいかう~~ [illegible]

せいかう [illegible]

せいさう　[illegible]

せいきう　[illegible]

せいめい [illegible]

そこ　底〇ものの奥このかきりまて おく〇わの底、心の底、（あいのそこ、いづれも そこ〳〵 に そを きらふ そこ）

そこ　塞〇ふせく かきを ふせくみたしり よき かきりき ところ

そこ　其処〇めのまへなるところをさして そあすか、そのところ〇そこ（ともそこ〳〵ず そもそも見にず、そこそこ そそず なし）

そこ　其許〇なむそなりノモト、ソナタ〇そこそなりを かろみてそる、そこも（ここ〳〵しこ そこまつる、そこもこそり いなと）

ソコ

（ソエ）[illegible]

そこら○許多○そこばくおびたゞし

そこはかとなし　術　つくとなれとなるし

そこだく　許多○あまた○そこばくのさゝげもの、そこばくのひと、そこばくの

そこ[illegible]　副　それこそいはゞ　そこばくらうまるそし

そこなふ　他四　傷、殘損○ころす、きずつく○ひとそこなふること
そこなふ、きゝそこなふ・いたくそこなふ（病みまで）なし

そこらく　そこばくにおほし

そこのくに　底國○よみのくに

そこのこゝろ　底心○こゝろのおく

そこひ　涯○かぎり、そことかぎり

そこひなし　無涯○かぎりなし

そこもと　其許○そのところ

~~ま~~で　袖、衣手○きものゝてきひらうてとおほいとところ、ころも
のてといふところ○そでひぢ、そでかへす、そでうち
かへす、そでふる、そでのそこみなみだをせく思ひ

サジウ子橋　木　長一間三　又　橋十間
轉　海用水川

たもつていふね）、そでのしぐれ、そでのしづく、そでのこぼと、
そでのうら、そでしぼ　綴とちて[illegible]）

高土居橋　木　長二間三　又　橋一間
轉　海用水川

㋞ソテ

袖ソテ 和十二ノ廿一

【古抄】旅宿それ袖枕 あおき床の名のごとあるを中のさよおかさ

【西戸ノ千光寺】蛙惢へ見るといやる袖はいくく積しあて人まちわぶる枕のこと

【古】春上 貫之 袖ひちて結びし水のこほれるを春たつけふの風やとくらん

【元禰】そらすゝき田子の浦は袖ひちて老の名こそかくるゝあとハ

【顕】秋の田をよめる哥 里はしていとのつるたすところ風そよめきて袖さむること」

いねのかくれいるを見ん「おほつかなたゝ袖のこそひきよねかくしこのいねう

（古散注）へしそめん【冊子】当世歌書ハ しら山のそその草ころもの草代よいくらつきし

そでのこといね 【顕】田上ゟ作り見れこまりゝいねと云ありをもちゐて

とりあげ作りたるを又の日 さそうつりして作るを見て ある哥にしるの

いはきもしまするもかれはさそうつまでよのこりや

かくしこともろ稲名し 又云うくもとこい稲名之 但つねにハちもとこと 【散注】そでのこといふて

たすてこともいふるや 此集まてもちもとことゝるをあれと未の袖さ

ほかるよせて たすてことよめるや

宮内本カ ろれ八九

袖ツケ衣 万十六 又廿ノ十四 官服ニ端袖ヲ着シいふ

袖振ル 万め
高卯の花
袖をかへす 袖をかへす
袖垂 てをかへす てちからなし
袖つまつく ひかりの袖ぬらく
袖ひろ 池中おもて
袖ぎちやり 枕てノ上ニ ふくハテコラズ袖ニテオホフこと

ソエ

そで 袖ハ衣手。衣の左右の手をおほふ所。衣の手と云義也 ○袖ひぢ、袖ふき、

袖打たれ、袖打振る、袖の柵（涙をせく故にいへる也）、袖の別れ、

袖の下、袖の湊、袖の香、ちらし法ありといへる也

袖細（ソデボソ）

軍用記 鎧下小袖ノ条 又近世称袖ト名付テ袖ハ箭ノ如ク細クし長サ

用ヘ可（鎧アリ袖ニ）アリ 袖ヲ細クスルハ 鎧ノ中ニサスニ便ナル故ニ 細シモ太ヘ

短キソコシトス ○又いふ、予 袖細と名付しハ素襖ノ袖ノ如ク

ソボテ細クしたるを云 是ハ鎧ノ下ニ着たるモノニアラス 狩ノ時ニ着セし

素襖也

松平定信朝臣所蔵 楠正成筆 明の文 袖書 集古十種 甲冑四 九ノ十 此あり

後朱雀院ノ御時 何ニ年ワロク 過差ヲ停止して 次日 賀茂祭ノ日 美人殿ヲ召テ 此ノ名の状末を 依テ見ユルハ以下ノ袖大ニ成ラカツ故ニハ 世の費ナルにて いかんナニ 大臣宗資 ○今日 一ノ巻ハ在ナ一と言ひける 云之 人之 衣装の寸法を定められける 古今著聞

袖 集古十種 古書額 穂積氏蔵 義宗紀 二同四ノ一 此図ハ 平康郎所蔵 館本 二日四ノ七

御袖 二三 古今 通信 二日四ノ十八 丁ウ

袖ノ紋 品下ノ 方五ノ

袖細 鎧ニ付ル名 袖ノ細キ袖ヲ云 古ヘ袖細トハ云 軍用記 一ノ一

袖袂 訓 武 草 一 宝慶二年月一

袖結 貞五ノ三之 袖ト袂トヲヨメル歌 枕下百三段 古今著聞 秋ノ野ノ草ノ袂カ花薄 出て招く袖と見ゆらん

袖細 貞五ノ四ハヌ五ノ五 貞三ノ三三 素襖ノ袖ヲシボリテ細クしたるを云 狩ノ時ニ着セし素襖也 軍用記 一ノ一

袖トメノ祝 貞三ノ五 貞下ノ七 袖トメ 女ハ一ノ八 男子ハ十五才ニテ止ル 但吉日 フリソデナシ 口キリテトメル也

袖ナシ 貞三ノ三七 袖頸巾 用捨箱 下ノ廿八 四丁ウ

袖スリノ節 貞三ノ六六 袖香炉 品二ノ三ウ

ソア 蘇甘栗使 内三ろ

ソカ

ソキ 袖モ 貞三ノ三ヲ

ソギ公 貞三ノ三七

ソエ

ニ四

[illegible]

ろでく　他の言又○　そでをかへす

ろでぐさ　神楽の○　袖を草にてすりそめしこと

ろでがき　神垣の○　こじりかき

ろでつけころも　そでつきころもをいふ

ろでつきごろも　神着衣の○　ひろき　そでのつきたるころも

ろでうつし　袖より袖にうつすこと

ろでぐち　袖の○　すそのそでよりいへる女房の衣の袖だし　ぞてのふちなどのよしをいふことあり

[illegible]

ろでまくら　ろでまくらみ　ろでまくら　そでは袖かへ　神枕の　そでを枕とすること　たまくら、まくらそでのた

[illegible]

ガラス使用

ソア

そあまくり　蘇甘栗。しらぐり、つみてひらめかうくりなるへし　同云

ソサ

まつ戌二万五百余刻　ハ千弗ニ成ル
[illegible]分ノ価

そさう　麁相。かたころあしさうろう

そぎる　殺枝のそぎらるゝにやえをふくまあのあめ

そぎたり　自恩退言のとほく　ちぎれて　ける

そぎたく　削　そこぎくはおもし

ソギハ公　見云ノ三巳

ソキモノ　見云ノ卌

ちひ゛しはくろきまで　そぎるゝ（コトソギタルヽ）ゆひとへは　ふるきのゆえ𛂦きゆひて　つくりえつけて　狭衣下上　古本

言見あり　ソキヌテ　ソメタルヲ云ニヤ

ソセ

ガラス使用

ソメ

露色猶生寄職人歌合　梅題とも　あの月の物を今はそめ絹のくりえもそも
いろいろえ申らん
風雅集　羇中為兼　月の夜も秋はさびしき旅の空のあはれうけとる物の音に
更くる身もうき物を今はそめしよりうつろいんといひたりしを
又
おくあやもの哀をそめて深まさる物の哀とは人のいふらん

そめいろの山
せくろの山　須弥
ぞめきとる
あるあやもの　翁
又くるり
とのまり

ソメイロの山　蘇迷廬山　梵文のうたよのせゐる山の名なりきみせんとを
そめいろ　須弥のまやうあん、さつくうのうたことハあり
ぞめく　自四　騒ぎさわぐ

ソエ

[illegible]

ソム [illegible]

ソヒ [illegible]

ソバ [illegible]

ソウ [illegible]

ソチ

ソツ

ソヨ

ソラ [illegible]

ソミ [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ソメ [illegible]

~~[illegible]~~

ガラス使用

染紙 呂ノ五ノ廿ニオ

ソしうた 石高
余九二ノ卅二オ

ソメ 蘇迷盧 洗一ノ八　染袖 鏡上サヌ廿

、染羽矢 貞十ノ九　染出来ル乃装 吉 [illegible] 八ノ三ハ　[illegible] 道 [illegible] 十二ノ十二

染帷子 貞三ノ二　染分 [illegible] 随身徳事 [illegible]

染付ノ小袖 貞三ノ廿　[illegible] ノ三オ

染小袖 貞三ノ三　染懐 道 [illegible] ノ八

ソミ 入ミシ将来ノ事 世諺上ノ十八

ソミ 十代 今百五十二坪二畝也　素心尾 列女ル人一云

ソユ

ソヒ

ソモ

ソセ 租税 長二ノ五

ソネ

津部

ツ 国色々 [illegible]

ツイ 衛里 貞七ノ八 徒ノ八 [illegible]

ソミ

陰徳 臣眼宣君 [illegible]

[illegible] 世諺上ノ十八

蘇民書札 [illegible] 山代

そミかくる

そしろた　十代田。ちるハぶひろくハあらぬた（一代ハ古の一段なれハ一代ハ今の一畝なり）ある

そしる　誹謗譏。あさみいふ（そのことをそのひとのそしりあへる）

そしらはし　形く　そしらるへきせまさなり

そゞろ　喩口　せめのかへるふの二ク

十代　そしろ廿五　年二拝二献之

素心尼　そしめる人一首

りしらん　ちぎめ　条人　二ノ卅三オ

助毛智利和

ソ謗歟
ソろりカモ

三

ソ旦

ソ乙

ソヒ

そびかる四や下庇

隂（ソ）頽（ヒ） 和三ノ十三丁

鷀（ソヒ）豆（トメ） 和十七ノ二丁

鵖（ソヒ） 和十八ノ十七丁

酸（ソヒ） 和十六ノ十三丁

ソユ

次左エ門橋　木製長二間二尺幅四尺　輕海用水川

九右エ門橋　木製長二間二尺幅四尺　輕海用水川

さまゝのすゑこひ二丁

（三条院ノ事）春宮はことし十三にならせ給つれば、この十月に御げんぷくのことあるべきに（東三条院ノ弟家）

御そひぶしに（綏子）をとめ（皇后ノ方ノ綏子ノ母也）この御方とて人のきこえおぼすなるをぞ（綏子尚侍ニナリ玉フ）ないしのかみになして

まゐり給て やがてたそひぶし ことにして むつまじくせさせ給て その御前にもよろしと

むつまじくせさせ給ふ 八丁ニ 十二月のついたちころにはいとことしう原えあつて やがて内侍のかみ[illegible]

承香殿女御世話せさせいとまやへおちゐまゐり（御くしげどの）八十五巻みそなへ給

そひ　御宮濡　追。こそりのあくしろころなてうをゝくゝるな

そひ　儛。をひつるとてろ、かまりゝ。かたそひ、山里のそひ、まづきの

そひそし

そひ　酸。あそひいひこきさけ

そびく　自ゝ　従前。あそくろくろう

そびくすり　抄除。くすのき

そびやう（ミ）形　そり　症耳。いけこうてし

ゾモ

そもじ様　それもさられもそ

そもく様　それもさられもそ

ろびやく　月毎縁日　ろびやうしある

ろひまめ　蘇豆　あくもちさい　ろろゐる　まめ。エンドウ

そら豆　大角豆　そひろる大角豆　[illegible]

そらまめ　蚕豆　あくもちさいちやうまめ。エンドウ

そびの　月ニ度　そびくよおそし

そりすえ　左竟　醍　ふるるびからぎをとる（さけて。あくりびをこくする

御宮橋　木橋長三間二尺幅四尺　塘海用水川

そもじ様　それもさられもそ　木橋長三間二尺幅四尺　塘海用水川

~~そも~~そも　そもじ様　それもさられもそ

そもじ　おやまつのいちそ、このとそいちと

そもつ　此度之殺　ぞゑずつ

九右エ門橋　木橋長二間二尺幅四尺　塘海用水川

二ノ　左エ門橋　木橋長二間二尺幅四尺　塘海用水川

そ

租税　長二七二

ソ七

ソス

そむき四方罷 通明

そむく ならぬも、あやまつ。なそむき、このごろそむき もと

そむる 他下二 之殺。そむかする

ソセ

831
合
60
13

ケエ

ガラス使用

帝國圖書館藏